

9 研究活動と研究環境

進捗状況報告

【9.1.3 研究上の成果の公表、発信、受信等】

研究成果の公表については、各教員の所属学会の学会誌（『日本の神学』、『キリスト教史学』、『宗教学研究』など）への論文掲載などがあるが、とくに神学部としては神学研究会より『神学研究』を毎年欠かさず一冊を出版し、原則ここに教員は論文を発表することとしている。2007年度は8名の専任教員が論文を発表している。なお、2007年度の専任教員新刊数は、単著2冊、共著2冊、翻訳3書となる。これらは、神学部ウェブサイト上で「教員新刊」案内を行い情報発信を行っている。

【9.2.1 研究活動】

神学部で把握している2007年度の専任教員の論文発表数は11点である。また学内第三者評価において指摘された科研費について、2007年度の申請数は代表者（単独）として3件となり、分担者としては1件あった。なお採択件数としては代表者（単独）が1件、分担者が1件である。しかし研究に専念できる環境整備は、専任教員数の事情から2008年度は困難なところがあり、来年度に向けて検討中である。またRCC主催のさまざまな研究プロジェクトへの参加、また大学特定プロジェクト研究センター「人間の尊厳と深淵の研究センター」（代表 向井考史神学部教授）は毎月公開の研究会を開いている。その他2007年度からの課題については継続検討を行っている。

学内第三者評価

研究成果発表・外部資金獲得については積極的な動きが認められる。毎年、欠かさず「神学研究」という学内紀要一冊を出版し、また、ウェブサイト上でも情報発信していることが認められるが、今後は、外部団体の主宰する雑誌などにも、積極的に投稿することが期待される。

— 以下全学共通 —

研究成果の発表状況について以下の表のとおりであることに留意されたい。

学部	年度	著書	論文	フリー付論文	学会報告	学術発表	翻訳	調査報告	書評	評論	事典	辞典	講演	招待講演	特許取得	特許出願
	2001	3	18	1	5	0	0	0	0	0	0	0	18	4	0	0
	2002	6	20	1	5	0	4	0	5	0	0	1	40	5	0	0
神学部	2003	8	18	1	1	0	4	0	1	1	1	0	39	3	0	0
	2004	12	15	0	1	0	3	1	2	1	0	0	35	4	0	0
	2005	8	10	0	6	0	4	1	2	0	1	0	38	1	0	0
	2006	11	17	1	4	0	2	1	3	5	0	0	38	3	0	0
	2007	5	2	0	0	0	2	0	1	0	1	1	17	2	0	0
計		53	100	4	22	0	19	3	14	7	3	2	225	22	0	0

（基本的な指標データNo9211、「関西学院大学研究業績データベース」に登録されている件数）